

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2897600020		
法人名	株式会社 ニッケ ケアサービス		
事業所名	グループホーム てとてニッケタウン ダイヤ		
所在地	愛知県あま市甚目寺桑丸8-1		
自己評価作成日	H27/2/19	評価結果市町村受理日	平成27年6月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特浴を備え、ADLが低下しても生活が出来る施設 床暖を配備し、靴を履かずに生活している
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2397600020-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2397600020-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの母体である繊維会社の工場の跡地につくられていることもあり、ホーム名は地域の方にも知られている名称でもある。ホームは開設初年度であるが、地域の方の理解も得られ、地域の祭事等への利用者の参加につながっている。ホームの近くには関連のデイサービスがあり、デイサービスで行われている行事の際には、ホームからも利用者が参加する機会が得られており、利用者の外出の機会にもつながっている。また、両ユニットがフラットにつながった構造である利点を活かして、利用者が日常的にユニット間を歩く時間をつくっており、利用者の機能訓練にもつながっている。ホームは「快く楽しく幸せに」を基本理念としながら、医療面での職員体制を整えながら日常的にも音楽を流しており、利用者がホームで安心してゆったりと過ごすことができる環境づくりに取り組んでいる。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成27年3月9日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念の共有はしているが、捉え方であったり、実践はまだまだ出来ていない	「快く楽しく幸せに」という言葉を基本理念に、ホームの目指すべき5項目の具体的な方向性(目標)を示しており、毎朝の朝礼の際に唱和している。また、職員にも具体的な目標をつくるように働きかけている。	2年目に向け、職員が理念の内容を理解しながら実践につながることを期待したい。また、家族や地域の方にも伝えるようなホーム便りやパンフレット等の充実にも期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	まだまだ地域への参加が出来ていない	ホームは地域の方の協力も得ながら町内会への入会が実現しており、地域の行事や祭事に参加し、地域の方との交流につなげている。また、「子ども110番の家」への登録や中学生の受け入れも行われている。	ホームから地域に出ていく機会をつくりながら、交流の機会をつくっている。2年目以降に向けて、ホームで行事を行いながら、地域の人に来てもらう取り組みにも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	出来ていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	活かしている	会議では、ホームの運営状況を細かく資料にまとめて報告しており、出席者にホームへの理解を深めてもらっている。家族にも案内を送り、家族の出席も得られている。また、会議では1~2時間かけており、出席者との情報交換の機会としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	出来ている	運営推進会議の案内等を市の担当者に持参する等、定期的な情報交換につなげている。他、市内のグループホーム間の年1回の連絡会にも参加している。また、区民展にも作品を出展する協力も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関はオートロックで施錠している	身体拘束を行わない方針であり、家族との話し合いが行われている。玄関は施錠されているが、基本的に外出は自由で職員の見守りが行われている。また、気になった際は、その都度、管理者が注意を促し、勉強会等を通じた職員への周知も行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議にて実施	現状、家族が集まる行事等の機会はつくられていないが、管理者が計画作成担当者を兼務していることもあり、家族の来訪時には面談の機会をつくり、意見等の把握に取り組んでいる。個別の報告書を毎月送付しており、利用者のホームでの様子を伝えている。	現状、運営推進会議への家族の出席が限定されていることもあるため、ホームの行事に家族への参加を働きかける等、今後の取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	させている	両ユニット合同の会議が月1回実施されており、管理者が把握した意見等は、法人の会議にも伝えられている。日常の申し送りの時間の中での話し合いも行っている。の面談も実施している。また、管理者による定期的な個別面談の機会もつくられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	勤めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	努めている	利用者の入居前からの関係の方がホーム来訪して交流したり、ホームから地域の祭事への参加が馴染みの場所である方もいる。また、家族との外泊や旅行に行った方もおり、家族との交流が持てるような働きかけにも取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	出来ていない		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		個別の記録を書く担当を決めながら、利用者の様子等を毎月の家族への手紙の作成にもつなげている。また、利用者に関する情報は、毎日の申し送りの時間に話し合われている他、業務管理日誌にも申し送り事項を記載して職員間の共有につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	作成している	ホームでは、介護計画の内容に基づいて、独自の「日常生活支援計画表」を作成しており、内容については6か月での見直しにつなげている。また、モニタリングについては、毎月の手紙の作成の作成が実質的なモニタリングとなっている。	職員が介護計画の内容を理解し共有できるように、ホーム独自の様式の活用も行いながら、計画内容に基づく記録を残す取り組みに期待したい。また、計画内容のチェックとしての定期的なモニタリングにも期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	活かしていない		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	している	ホーム協力医による月1回の訪問診療が行われているが、今までのかかりつけ医の継続も可能である。家族による受診支援の際には、ホームからの情報提供も行われている。また、複数の看護師が勤務しており、利用者の健康面の支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	対象なし	ホームでの看取り支援については、家族の希望にも合わせて対応しており、協力医や看護師との連携等、医療面の支援も行いながら、ホームで看取り支援を行った経験もある。また、職員の研修等として、ミーティング後の勉強会の機会もつくっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	対応訓練は行いが、実践力はまだまだ		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地域との体制はまだまだ	年2回の避難訓練には利用者も参加しており、消火器の使用方法等も含めて実施している。消防署職員が訓練時以外に来訪し、助言等を得る機会としている。なお、地域の災害訓練への参加等、地域の方との協力関係については、今後のテーマでもある。	地域の避難訓練への参加や夜間想定訓練の実施等、今後に向けた取り組みに期待したい。また、備蓄品についても、米以外の食料や水などの充実を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	している	管理者より、自分の親族が介護されて嫌だと思ふような言動をしないように伝えられており、気になった際には、毎日の申し送りの時間にも話し合われている。また、入浴介助時には職員1名で対応する等、利用者のプライバシーの配慮にも取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日によって出来ていない		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	している	おかず類の配達により食事の提供が行われているが、月1回の「パンの日」を設けており、食事に変化があるような工夫もしている。利用者も片付け等に参加している他、食事の際には、職員も一緒に食事を行っており、会話を楽しむ取り組みも行われている。	関連のデイサービスの行事食にホームからも参加する取り組みが行われているが、ホームでの行事食の機会が増えることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	行っている	全員の排泄チェックの他、必要な方には別のチェック表も用意しており、職員による声かけ等でトイレでの排泄を促している。朝の申し送りの時間に排泄に関する情報交換を行いながら職員間で共有につなげ、おむつから布パンツに改善した方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	出来ていない	2日に1回の入浴を基本とし、時間も午前と午後を実施している。機械浴も設置されており、重度の方の対応も可能である。また、浴槽の湯を毎回入れ替えたり季節の柚子湯等を行っている他にも、銭湯へ家族と一緒に出かけた方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	全員に役割は無い		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	支援している	ホームでは、日常的に周辺への散歩や買い物等による外出が行われている他にも、関連のデイサービスの行事に参加する機会もついている。また、地域の行事の日に合わせた外出もったり、個別の意向等に合わせた外出支援も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	所持は無いが、買い物時に支払いをお願いすることもある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	している	リビングは広く、採光も優れており、音楽も流しながら、ゆったりとした雰囲気をつくっている。リビング内に畳の部屋やテラスもあり、ソファ以外に寛ぐ場所も確保されてある。また、壁には、利用者の作品や写真も掲示され、ホームの様子を伝えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	している	居室内にはベッドが備え付けられているが、希望にも合わせた机や収納ケース等の家具類の持ち込みが行われている。また、家族の写真や趣味の物が置いてあり、利用者が居心地良く過ごせる取り組みが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	している		